

埼玉県圏央道・外環道ゾーン地域産業活性化基本計画

1 産業集積の形成又は産業集積の活性化に関する目標

(1) 地域の特色と目指す産業集積の概要について

(地理的条件、既存の産業集積の状況、インフラの整備状況等地域の特色について)

【地理的条件等】

- 関東平野に位置する埼玉県は、平地が3分の2以上を占め、気候が温暖で自然災害が少ない、恵まれた自然環境にある。
- 本県は、約720万人の人口を擁し、民間最終消費支出が1.4兆円に及ぶ大きな市場である。さらに本県が中央に位置する首都圏1都7県の人口は約4千万人と日本の人口の約3分の1を占める巨大マーケットとなっている。
- 当該地域は、都心から概ね10～60km圏にあり、県全体に占める割合は、人口が約9割、可住地面積が7割強となっている。また、本県は、経済活動の主たる担い手である生産年齢人口（15～64歳）の割合が66.3%と全国で3番目に高いが、当該地域では66.5%とさらに高くなっている。

集積区域に関するデータ

人口(人)	6,478,010
市町村数	50
可住地面積(ha)	188,688
立地件数	193
製造業事業所数	11,307
製造業従業者数(人)	324,716
製造業付加価値額(億円)	31,459
製造品出荷額等(億円)	91,330

- 産業や人口の集積が進む一方、首都圏の中で本県だけほぼ全線開通している東京外環自動車道（以下、「外環道」という。）に加え、首都圏中央連絡自動車道（以下、「圏央道」という。）の整備が進むことで、広域交流の拠点として一層の発展が期待される地域である。

【既存の産業集積状況等】

- 本県の県内総生産（平成21年度：名目）は、約20兆4千億円で全国第5位、フィンランドやシンガポールとほぼ同じ、一つの国並みの経済規模となっている。
- 県内総生産額の経済活動別の構成比では、製造業が最も大きくなっている。また、従業者数、事業所数についても、全産業に占める製造業の比重が高いことが本県の特徴となっている。
- 製造業については、特定の業種に特化せず、多様な業種が幅広く集積している。

* 人口は、平成22年国勢調査による
 * 立地件数は、平成19年12月～平成24年9月の埼玉県の企業誘致の取組に基づく件数
 * 製造業事業所数～製造品出荷額等は、工業統計調査（平成22年）による

- ・ 当該地域における平成22年の製造品出荷額等は約9兆1,300億円で、本県全体の約3/4を占めている。
- ・ 食料品製造業、印刷業、化学工業、プラスチック製品製造業、金属製品製造業、生産用機械器具製造業、輸送用機械器具製造業など、多様な産業が集積している。このうち、製造品出荷額等では輸送用機械器具製造業が20.4%、従業者数では食料品製造業が16.9%を占め、最も大きくなっている。

産業集積に係るデータ1

(工業統計調査(平成22年)による)

	事業所数		従業者数(人)		製造品出荷額(万円)		付加価値額(万円)	
		割合		割合		割合		割合
09 食料品	768	6.8%	54,740	16.9%	128,601,381	14.6%	49,798,558	15.8%
10 飲料・飼料	79	0.7%	2,004	0.6%	10,232,411	0.6%	4,243,428	1.3%
11 繊維	363	3.2%	5,118	1.6%	6,463,385	0.6%	2,921,110	0.9%
12 木材・木製品	118	1.0%	1,598	0.5%	2,954,169	0.3%	1,211,392	0.4%
13 家具・装備品	359	3.2%	3,944	1.2%	4,322,455	0.5%	2,116,519	0.7%
14 パルプ・紙	484	4.3%	12,016	3.7%	38,488,180	4.2%	13,563,475	4.3%
15 印刷	993	8.8%	31,842	9.8%	72,933,730	7.1%	31,712,003	10.1%
16 化学	300	2.7%	17,762	5.5%	91,755,952	10.4%	35,401,338	11.3%
17 石油・石炭	33	0.3%	450	0.1%	985,152	0.1%	338,549	0.1%
18 プラスチック製品	982	8.7%	21,753	6.7%	47,752,318	5.1%	20,015,902	6.4%
19 ゴム製品	244	2.2%	5,562	1.7%	8,012,852	0.9%	3,916,663	1.2%
20 なめし革	118	1.0%	1,620	0.5%	1,354,483	0.1%	580,765	0.2%
21 窯業・土石	295	2.6%	5,578	1.7%	13,302,603	1.4%	5,568,594	1.8%
22 鉄鋼	248	2.2%	5,275	1.6%	24,662,947	2.7%	6,722,102	2.1%
23 非鉄金属	279	2.5%	7,217	2.2%	33,185,572	3.7%	7,253,044	2.3%
24 金属製品	1,831	16.2%	29,004	8.9%	53,127,455	5.0%	21,761,792	6.9%
25 はん用機械	414	3.7%	13,278	4.1%	31,613,037	3.4%	13,986,365	4.4%
26 生産用機械	1,087	9.6%	18,232	5.6%	34,366,227	3.7%	15,063,956	4.8%
27 業務用機械	389	3.4%	11,621	3.6%	43,345,279	5.0%	17,751,005	5.6%
28 電子部品	242	2.1%	10,996	3.4%	25,221,831	2.8%	9,541,490	3.0%
29 電気機械	483	4.3%	13,871	4.3%	35,966,798	4.0%	13,457,613	4.3%
30 情報通信	132	1.2%	7,906	2.4%	10,464,015	1.1%	3,110,942	1.0%
31 輸送用機械	495	4.4%	33,615	10.4%	175,941,430	20.4%	27,010,737	8.6%
32 その他の製造	571	5.1%	9,714	3.0%	18,252,112	2.1%	7,541,905	2.4%
集積業種	10,712		317,554		904,674,667		310,680,571	
総計	11,307		324,716		913,305,774		314,589,247	

- 当該地域の流通加工業（道路貨物運送業、倉庫業、運輸に附帯するサービス業、卸売業）は、事業所数が20,216か所、従業者数が297,598人（平成21年経済センサス）であり、平成18年から21年にかけて、製造業で事業所数・従業者数が減少する中、増加している。

産業集積に関するデータ2(流通加工業に関するデータ)

	平成21年		平成18年		増減率(H18~21)	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
44 道路貨物運送業	4,027	115,268	3,276	93,692	22.9%	23.0%
47 倉庫業	879	21,435	606	13,142	45.0%	63.1%
48 運輸に附帯するサービス業	704	20,094	663	18,767	6.2%	7.1%
卸売業計	14,606	140,801	12,199	117,558	19.7%	19.8%
計	20,216	297,598	16,744	243,159	20.7%	22.4%

* 経済センサス(平成21年)、事業所・企業統計調査(平成18年)による。

【インフラの整備状況等】

①道路網

- 本県には、東西方向に圏央道、外環道が、また、南北方向に東北自動車道（以下、「東北道」という。）、関越自動車道（以下、「関越道」という。）、常磐自動車道（以下、「常磐道」という。）、首都高速道路（以下、「首都高速」という。）が走り、高速道路の実延長は211km、インターチェンジ数（ランプを含む）は48となっている。
- 当該地域には、これらの高速道路すべてが走っており、浦和ICから仙台まで3時間強、青森まで7時間弱、所沢ICから新潟まで3時間弱、長野まで2時間強、三郷JCTから水戸まで約50分でアクセスが可能となっている。
- 首都圏を環状に結ぶ外環道は、県内区間のみがほぼ全線開通している。
- 自動車で高速道路のインターチェンジから20分以内で到達できる市町村の割合は、当該地域の約90%となっている。
- 圏央道の県内区間が全線開通（平成26年度以降を予定）すると、同地域内に中央自動車道、関越道、東北道を結ぶ高速道路ネットワークの要が完成する。地域の一体性が高まるとともに、首都圏の中心に位置し、北関東・東北・甲信越へのアクセスが容易であるという本県の強みが一層大きくなる。
- また、国道4号、同16号、同17号、同122号、同125号、同254号、同298号、同407号、同463号などによって地域内が結ばれており、今後、高速道路へのアクセス道路等の整備を進め、自動車で高速道路のインターチェンジから20分以内で到達できる市町村の割合を約96%まで高めるなど、利便性の向上が図られる見込みである。

②鉄道網

- ・ 本県には、東北・上越新幹線を含む24路線、722.4kmの鉄道網が整備されている。
- ・ 当該地域では、大宮駅を起点に東日本の多くの主要都市（高崎（25分）、新潟（100分）、長野（74分）、宇都宮（25分）、福島（63分）、仙台（76分）、盛岡（120分）新青森（165分）等）と結ばれている。
- ・ 平成26年度には宇都宮線、高崎線の東京駅乗り入れが予定されており、東京都心へのアクセスも向上する。

③大学・研究機関等

- ・ 世界的な研究機関である理化学研究所や産学官連携の共同研究を進める埼玉県産業技術総合センターをはじめ、多数の研究機関、大学が集積している。
- ・ 大企業の研究所や研究開発型企業、多様なものづくり産業が集積しており、また、生産年齢人口比率が高いことなど、企業活動に重要な高度な技術を有する人材、豊富な働き手にも恵まれている。

④産業基盤施設

- ・ 建設工事の進む圏央道沿線地域は、今後、インターチェンジ周辺等を中心に、産業集積のポテンシャルが一層高まることが見込まれる。一方、圏央道沿線には豊かな田園地帯が広がっている。そこで、圏央道の県内区間の全線開通目標に合わせ、周辺の田園環境と調和した計画的な開発を実現するため、埼玉県は、田園都市産業ゾーン基本方針を策定し、官民の連携の下、産業基盤づくりを誘導・支援している。

（目指す産業集積の概要について）

【自動車関連産業】

- ・ 自動車は2～3万点の部品から構成されており、素形材産業、電機・電子産業など関連する産業は多岐にわたる。
- ・ 自動車はガソリン車からハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車へと技術革新のロードマップが見えている。この過程で環境に対する負荷の軽減や省エネルギーへの取り組みにより新素材の開発が進むなど、将来にわたって自動車関連産業の発展が期待される。
- ・ 自動車製造業は日本標準産業分類上、輸送用機械器具製造業に含まれるが、本県では、輸送用機械器具製造業は製造品出荷額等が2兆1,094億円（平成22年工業統計調査）と製造業で最も大きい割合（16.4%）を占めている。
- ・ 当該地域における製造業全体の製造品出荷額等は、9兆1,331億円であるが、輸送用機械器具製造業の製造品出荷額等は1兆7,594億円で製造業全体の20.4%を占めており、地域内の基幹産業となっている。
- ・ 積極的な企業誘致・フォローアップ、産業基盤の整備、人材の育成・確保支援、技術

支援等の各種施策を総合的に実施することで、自動車関連産業の一層の集積を図る。

- ・ また、新規立地企業と既存企業との交流を促進し、新たなビジネスチャンスを創出する。

【食品産業】

- ・ 食品産業は、産業分類上は食料品製造業と飲料・たばこ・飼料製造業の2業種から成り、製造業全体の生産額の1割強を占めている。多くの従業員を雇用する産業であり、地域経済に大きな影響力を持っている。また、生活必需品を提供する産業であることから、景気変動の影響を受けにくく、不況に強いという特徴を持っている。
- ・ 原料である農林水産物が欠かせない産業であることから、かつては農林水産物の生産地に生産拠点を置くことが多かったが、現在では、消費地に近い都市部への立地が増加している。
- ・ 最近10年間（平成14～23年）の本県の工場立地件数を業種別に見ると、食料品製造業が68件（工場立地動向調査）で最も多くなっている。首都圏という巨大な消費市場の中心に位置し、北関東・東北・甲信越へのアクセスが容易であるという本県の立地特性は、鮮度を重視する食品産業に適していると考えられる。
- ・ また、本県の食料品製造業は、従業者数62,921人（平成22年工業統計調査）と製造業で最も大きい割合（16.0%）を占めている。
- ・ 当該地域においても食料品製造業は、従業者数54,740人（全製造業に占める割合16.9%）で、地域内の製造業で最大の雇用を創出している。
- ・ 積極的な企業誘致・フォローアップ、産業基盤の整備、人材の育成・確保支援、技術支援等の各種施策を総合的に実施することで、食品産業の集積を図る。
- ・ また、地域の農産物の特性を活かした加工食品の開発などを通じて農業者と食品産業との連携を支援するとともに、県内の事業者へ産地や農産物の情報を提供することで、食品産業における県産農産物の利用を拡大する。

【医薬品関連産業】

- ・ 医薬品関連産業は、産業分類上は、化学工業（医薬品等製造等）、パルプ・紙・紙加工品製造業（医薬品パッケージ等）、印刷・同関連業（パッケージ印刷等）、プラスチック製品製造業（医薬品容器等）、ゴム製品製造業（医療用衛生ゴム等）、窯業・土石製造業（医療用ガラス器具等）、生産用機械器具製造業（医薬品等製造装置等）、業務用機械器具製造業（医療用機械器具等）、電気機械器具製造業（医療用計測器等）からなる。
- ・ 薬事工業生産動態統計（厚生労働省）では、医薬品生産金額は平成17年には約6兆4,000億円だったものが、平成23年には約7兆円になっており、医薬品の市場規模は増加の傾向にある。
- ・ また、上記統計によると、埼玉県は医薬品生産金額が約7,600億円（平成23年）であり、全国の10.9%を占め、1位となっている。また同統計で、埼玉県は医療機

器生産金額が約850億円（平成23年）であり、全国の4.7%を占め、8位となっている。埼玉県は医薬品関連産業の集積が高い県とすることができる。

- ・ 今後、高齢化の進展に伴い医薬品市場は拡大が予想される。積極的な企業誘致・フォローアップ、産業基盤の整備、人材の育成・確保支援、技術支援等の各種施策を総合的に実施することで医薬品関連産業の集積を更に進める。

【流通加工業】

- ・ 流通加工は、流通過程において、顧客の要望に応じて検討、値付け、包装などを行う加工作業である。昨今、多品種少量配送、短期間の納品などの要請などもあり、流通加工業の重要性が高まっており、新たな雇用の創出が期待できる。
- ・ また、物流施設の大規模化に伴い、ここ数年県内に立地した流通加工業の平均投資額は製造業のそれを大きく上回っており、今後も大きな投資が期待できる。
- ・ 本県の流通加工業（道路貨物運送業、倉庫業、運輸に附帯するサービス業、卸売業）の従業者数は、330,412人（平成21年経済センサス）となっている。製造業の従業者数が減少（平成19年から22年にかけて46,946人の減少）する中、流通加工業では、従業者数が増加（平成18年から21年にかけて58,353人の増加）している。
- ・ 当該地域においても流通加工業の従業者数は297,598人（平成21年）で、平成18年との比較では54,439人の増加となっている。
- ・ 圏央道の全線開通により交通利便性が飛躍的に向上し、当該地域における流通加工業のさらなる集積が期待できる。
- ・ 積極的な企業誘致・フォローアップ、産業基盤の整備、人材の育成・確保支援等の各種施策を実施し、流通加工業の集積を図る。

（2）具体的な成果目標

	現状	計画終了後	伸び率
集積区域における集積業種全体の付加価値額	3兆1,068億円	3兆2,621億円	5%

(3) 目標達成に向けたスケジュール

取組事項 (取組を行う者)	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
<p><産業用共用施設の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業ニーズに応じた用地の確保及び用地情報の収集・提供（県・市町村・事業者） 田園都市産業ゾーンづくりの推進（県・市町村・事業者） 埼玉県農業大学校用地を活用した産業集積の推進（県・市・事業者） 					
<p><人材の育成・確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくり人材の育成（県・市町村・事業者） 成長分野の人材育成（県・市町村・事業者） 高等技術専門校を中心とした地域連携による中小企業の人材確保・育成支援（県・市町村・事業者） 					
<p><技術支援等></p> <ul style="list-style-type: none"> 経営革新にチャレンジする企業等の支援（県・公的支援機関・経済団体・大学・事業者） 産学官連携・知的財産活用による新製品・新技術開発支援（県・大学・公的支援機関・経済団体） 企業間交流の促進（県・市町村・経済団体・事業者） 成長が見込める産業への参入支援（県・公的支援機関） 					
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 「ワンストップ・オーダーメイド・クイックサービス」を徹底した企業誘致活動の実施（県・市町村・経済団体・金融機関） 創業前の相談からフォローアップまでの一貫した創業支援（県・市町村・経済団体・金融機関） 企業立地等に関する優遇制度（県・市町村） 					

号、同463号などにより結ばれている地理的連続性を有する区域である。平成26年度以降に圏央道が県内全線開通すると、同地域内に高速道路のネットワークの骨格が完成し、地域の一体性がさらに高まる。

- ・ 自動車関連産業には電気機械、金属、化学など幅広い分野の協力企業群の存在が必要となるが、同地域の各市町にはこれらの産業が集積している。
- ・ 食品産業は、需要の大きい都市部へ立地することが多いが、当該地域は都市が連なり600万人以上の人口が居住していて同産業に適した立地特性を有している。
- ・ 本県は、医薬品生産金額が全国1位であるが、そのうちの約18%を占めるサノフィ(株)(川越市)、同じく約16%を占める大正製薬(株)(さいたま市)などがあり、地域における重要な産業となっている。
- ・ 本県は、自動車で高速道路のインターチェンジから20分以内で到達できる面積の割合が現在約62.3%であり、平成28年度末には約70%まで高まる予定であるなど、道路交通網が充実しており、流通加工業に適した立地特性を有している。

3 集積区域の区域内において特に重点的に企業立地を図るべき区域

(区域)

当面は指定せず、指定する必要が生じたときは、計画修正により対応する。

4 工場立地法の特例措置を実施しようとする場合にあっては、その旨及び当該特例措置の実施により期待される産業集積の形成又は産業集積の活性化の効果

(工場立地法の特例措置を実施しようとする区域)

当面は指定せず、指定する必要が生じたときは、計画修正により対応する。

5 集積業種として指定する業種（以下「指定集積業種」という。）

(1) 業種名

(業種名又は産業名)

自動車関連産業

(日本標準産業分類上の業種名)

11 繊維工業、16 化学工業（ただし、161 化学肥料製造業、1624 塩製造業、164 油脂加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料製造業（1644 塗料製造業、1645 印刷インキ製造業、1646 洗剤・磨剤製造業、1647 ろうそく製造業 以外）、165 医薬品製造業及び166 化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業は除く）、17 石油製品・石炭製品

製造業、18 プラスチック製品製造業、19 ゴム製品製造業、21 窯業・土石製品製造業、22 鉄鋼業、23 非鉄金属製造業、24 金属製品製造業、25 はん用機械器具製造業、26 生産用機械器具製造業、27 業務用機械器具製造業、28 電子部品・デバイス・電子回路製造業、29 電気機械器具製造業、30 情報通信機械器具製造業、31 輸送用機械器具製造業（ただし、312 鉄道車両・同部分品製造業及び313 船舶製造・修理業、船用機関製造業は除く）、32 その他の製造業

(業種名又は産業名)

食品産業

(日本標準産業分類上の業種名)

09 食料品製造業、10 飲料・たばこ・飼料製造業（ただし、105 たばこ製造業は除く）

(業種名又は産業名)

医薬品関連産業

(日本標準産業分類上の業種名)

14 パルプ・紙・紙加工品製造業、15 印刷・同関連業、16 化学工業（ただし、1624 塩製造業は除く）、18 プラスチック製品製造業、19 ゴム製品製造業、21 窯業・土石製品製造業、26 生産用機械器具製造業、27 業務用機械器具製造業、29 電気機械器具製造業

(業種名又は産業名)

流通加工業

(日本標準産業分類上の業種名)

44 道路貨物運送業、47 倉庫業、48 運輸に附帯するサービス業、50 各種商品卸売業、51 繊維・衣服等卸売業、52 飲食料品卸売業、53 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業、54 機械器具卸売業、55 その他の卸売業

* ただし、流通加工の用に供する設備を有するものとする。

(2) (1) の業種を指定した理由

(自動車関連産業)

- ・ 輸送用機械器具製造業は、地域内の製造品出荷額等で最大の割合を占める当該地域の基幹産業である。
- ・ 自動車は、2～3万点から構成されており、関連する産業は幅広い分野にわたる。また、数多くの素材を必要とすることから、中小企業が担う鋳造、プレス加工、めっきといった分野にも関係する。
- ・ 世界的な四輪車メーカーである本田技研工業(株)の工場やグローバルな総合自動車部品メーカーであるカルソニックカンセイ(株)、UDトラックス(株)等が区域内に集積しており、

今後も自動車関連産業の一層の集積、新製品開発に向けた技術交流や人材の交流などが期待できる。

- ・ 当該地域の基幹産業である自動車産業の更なる集積を図ることで、地域経済の活性化が期待できる。

(食品産業)

- ・ 食料品製造業は、地域内の製造業で最も多くの従業者を雇用するとともに、製造品出荷額等、付加価値額でも10%以上を占める地域内の重要な産業である。
- ・ 飲料・たばこ・飼料製造業のうち酒類製造業について、本県には35の酒蔵があり、清酒製造量は全国4位の規模（国税庁平成23年度速報）となっている。当該地域には24の酒蔵があり、埼玉県産業技術センター北部研究所において日本酒醸造用の新酵母の開発を行うなど、同業種の振興に努めている。
- ・ 首都圏という巨大な消費市場の中心に位置し、北関東・東北・甲信越・北陸へのアクセスが容易であるという当該地域の立地特性は、鮮度を重視する食品産業に適している。
- ・ また、生活に不可欠な食品を製造する当該産業は、景気変動の影響を受けにくく、生産変動や在庫変動が少ないという特徴を持つ。
- ・ 多くの従業員を雇用し、景気変動の影響を受けにくい食品産業のさらなる集積を図ることで、地域経済の活性化が期待できる。

(医薬品関連産業)

- ・ 今後、高齢化の進展に伴い医薬品の需要が高まることが見込まれる。また、海外を見ても、近い将来に急激な高齢化社会が到来する中国などでも急激に医薬品需要が拡大すると予想される。
- ・ 医薬品生産金額が全国1位である本県の中でも、医薬品製造業者111社が立地している当該地域で医薬品関連産業のさらなる集積を図ることで地域経済の活性化が期待できる。

(流通加工業)

- ・ 本県は、首都圏という巨大な消費市場の中心に位置しつつ、複数の高速道路等により、北関東、東北、甲信越へのアクセスが容易であるという物流拠点としての優位性を持っている。
- ・ 本県、特に当該地域の交通の優位性は、圏央道の県内区間全線開通によって県内の高速道路ネットワークの要が完成することでさらに高まり、流通加工業の一層の集積が期待できる。
- ・ 自動化が進む製造業では就業者数が減少傾向にあるのに対し、流通加工業では多品種少量配送や短納期への要請の高まりなどに対応した新たな雇用の創出が期待できる。
- ・ また、物流施設の大規模化に伴い、ここ数年県内に立地した流通加工業の平均投資額は製造業のそれを大きく上回っており、今後も大きな投資が期待できる。

- ・ 当該地域が持つ交通の優位性を生かして、流通加工業の更なる集積を図ることにより、地域経済の活性化が期待できる。

6 指定集積業種に属する事業者の企業立地及び事業高度化の目標

	目標数値
指定集積業種の企業立地件数	230件
指定集積業種の製造品出荷額等の増加額	4,523億円
指定集積業種の新規雇用創出件数	7,600人

7 工場又は事業場、工場用地又は業務用地、研究開発のための施設又は研修施設その他の事業のための施設の整備（既存の施設の活用を含む。）、高度な知識又は技術を有する人材の育成その他の円滑な企業立地及び事業高度化のための事業環境の整備の事業を実施する者及び当該事業の内容

（産業用共用施設の整備等に関する事項）

（1）企業ニーズに応じた用地の確保及び用地情報の収集・提供（県、市町村、事業者）

- ・ 企業誘致に関するノウハウを有する民間企業経験者を採用し、人的ネットワークや企業情報等を活用して情報収集を行う。
- ・ 企業の多様な用地ニーズに応えるため、（公社）埼玉県宅地建物取引業協会等と連携し、より多くの未利用地情報を収集し、企業に提供する。
- ・ 市町村が企業誘致のために行う用地の確保について、県がアドバイスを行うとともに各種行政手続きに係る庁内調整の円滑化を図り、積極的に支援する。

（2）田園都市産業ゾーンづくりの推進（県、市町村、事業者）

- ・ 圏央道の優位性を生かした産業集積を進めるため、田園都市産業ゾーン基本方針に基づき、圏央道沿線の豊かな田園環境と調和した産業基盤づくりを推進する。
- ・ 同基本方針に基づき、産業基盤づくりを進めるため、重点的な誘導・支援の対象とする。
- ・ 県の支援は、市・町との協働のもとで実施する。県は、公的機関（県企業局等）の事業への参画・支援を進めるほか、民と官とのつなぎ役を務め、事業のスピードアップ、開発コスト負担の軽減を図る。

（3）埼玉県農業大学校用地を活用した産業集積の推進（県、市町村、事業者）

- ・ 圏央鶴ヶ島インターチェンジ近くに位置する埼玉県農業大学校用地を活用し、武蔵野の豊かな自然と産業、生活との調和を図りながら、産業の集積を進める。

(人材の育成・確保に関する事項)

(1) ものづくり人材の育成 (県、市町村、事業者)

- ・ 高等技術専門校においてもものづくり分野の職業訓練を実施する。
- ・ 企業のニーズに対応した在職者の技能向上訓練を実施する。
- ・ 企業OBを活用した技能継承支援を実施する。

(2) 成長分野の人材育成 (県、市町村、事業者)

- ・ 次世代自動車や太陽光発電などの環境・エネルギー分野の職業訓練を実施する。
- ・ 民間教育訓練機関や大学が有する人材育成ノウハウを活用するなどして、求職者の再就職に資する訓練を実施し、県内産業に携わる人材の育成に役立てる。

(3) 高等技術専門校を中心とした地域連携による中小企業の人材確保・育成支援 (県、市町村、事業者)

- ・ 地域ごとの高等技術専門校が中核となり、高等学校、商工団体等が相互に連携・協力することにより、中小企業の人材確保・育成を図る。

(技術支援等に関する事項)

(1) 経営革新にチャレンジする企業等の支援

(県、公的支援機関、経済団体、大学、事業者)

- ・ 中小企業新事業活動促進法に基づき、中小企業者等が自ら策定する「経営革新計画」の策定・実行を支援・承認し、企業の経営基盤の強化を図る。
- ・ 埼玉県中小企業支援センター（(財)埼玉県産業振興公社）において、中小企業からの相談に対して、企業で研究開発に取り組んだ経験のある方や技術、財務、税務、法律などの外部専門家を活用したより実践的・具体的な指導、助言を行う。
- ・ (公財)さいたま市産業創造財団において、中小企業からの相談に対して、専門家による経営に関する相談や法律、会計、税務、労務などの専門相談を行うほか、企業が抱える経営や技術課題に対して、各分野の専門家が直接企業に訪問し、アドバイスや技術支援などのサポートを行う。
- ・ 災害などの緊急事態に対する事業活動の継続を図るため、企業のBCP（事業継続計画）策定を支援する。

(2) 産学官連携・知的財産活用による新製品・新技術開発支援

(県、大学、公的支援機関、経済団体、)

- ・ 産学連携支援センター埼玉を拠点とし、県内中小企業等に対して、大学等研究機関とのマッチングや競争的資金の獲得など、産学連携による研究開発の支援を行う。
- ・ 知的財産総合支援センター埼玉を核として、中小企業等の知的財産の創造・保護・活用を促進し、知的財産を活用した新製品や新サービスの開発、高付加価値化を支援する。
- ・ 埼玉県産業技術総合センターにおいて、県内企業の産業技術力向上を目指し、技術相

談や依頼試験、機器開放を通じて技術支援を行うとともに研究開発から試作品作成、事業化までの一貫した技術的支援を行う。

(3) 企業間交流の促進（県、市町村、経済団体、事業者）

- ・ 県内企業と立地企業との商談会の開催、工業団地工業会との定期的な交流会の実施などにより、県内企業と立地企業との交流を図り、ビジネスチャンスを創出する。
- ・ 金融機関等と連携した広域展示商談会や大手メーカーと県内中小企業との個別商談会などを開催するとともに、個別企業の取引あっせんを行い、県内企業のビジネスチャンスの拡大を図る。

(4) 成長が見込める産業への参入支援（県、公的支援機関）

- ・ （財）埼玉県産業振興公社「次世代自動車支援センター埼玉」において、自動車メーカー出身のアドバイザーによる技術開発等の支援を行い、自動車関連産業の振興を図る。
- ・ 次世代自動車等先進的な技術や製品の開発を行う県内企業に補助金を交付し、新規参入への支援や自動車関連産業の振興を図る。

（その他の円滑な企業立地及び事業高度化のための事業環境の整備に関する事項）

(1) 「ワンストップ・オーダーメイド・クイックサービス」を徹底した企業誘致活動の実施（県、市町村、経済団体、金融機関）

- ・ 個々の企業のニーズや実情にきめ細かく対応した誘致活動を進めるとともに、立地に係る相談窓口を一元化し、手続きの迅速化、簡素化を図る。
- ・ 県・市町村企業誘致連絡会議により、企業誘致に関する情報交換や研修等を実施する。
- ・ 立地企業ごとの担当者を定め、企業訪問を行い、企業ごとの各種相談の受付、関係機関との連絡、情報提供、フォローアップを継続的に行う。

(2) 創業前の相談からフォローアップまでの一貫した創業支援

（県、市町村、経済団体、金融機関）

- ・ （財）埼玉県産業振興公社「創業・ベンチャー支援センター埼玉」において、専門家による開業相談や資金の調達支援など創業から創業後のフォローまで、ワンストップの支援を行う。
- ・ ベンチャー企業等と投資家や関係企業との出会いの場の創出や製品の表彰等による販路開拓支援を行う。
- ・ 新たに事業を開始しようとする方、創業後間もない方に、事業に必要な資金を低利で融資する。

(3) 企業立地等に関する優遇制度（県、市町村）

- ・ 新規立地・事業高度化に資し、企業のニーズに合った補助金交付、制度融資などの優遇制度を実施し、その周知と活用の促進を図る。

(4) 海外企業とのマッチングなど新たな事業展開の支援

(県、市町村、経済団体、金融機関)

- ・ 貿易・投資相談やセミナーなどの実施を通じて、企業の海外展開を支援する。
- ・ 企業が海外展示会や海外訪問団に参加する機会を創出する。
- ・ 中国との取引を促進し、県内生産・投資につなげるため、埼玉県上海ビジネスサポートセンターにおいて、アドバイザーによる相談、情報の提供、調査、現地専門家の紹介等の支援を行う。
- ・ ASEAN地域への県内企業の進出を促進し、県内経済の活性化と雇用創出につなげるため、ベトナム（ハノイ）の「アセアンビジネスサポートデスク」、ベトナム（ホーチミン）、タイ（バンコク）の「ビジネスコーディネーター」を拠点とした支援を行う。

(5) 農商工連携の促進（県、市町村、経済団体、事業者）

- ・ 農商工連携に関するフェアやフォーラム、ワークショップ等の開催など農業者と商工業者とのビジネスマッチングの場を提供する。
- ・ 農業者と食品製造業者、流通業者、観光事業者との連携を促進し、農産加工品等の市場ニーズの把握や販路拡大、原材料の特性や機能性に着目した加工食品の開発及び製品化を促進する。
- ・ 商品開発やマーケティング等、専門的な知見を有するコーディネーターの活用により、実需者ニーズに対応できる産地の育成とともに、消費者の新たなニーズを創出する商品開発を支援する。

8 環境の保全その他産業集積の形成又は産業集積の活性化に際して配慮すべき事項

(1) 環境の保全

産業集積の形成、活性化を図るに当たり、国が定める各種環境法令の遵守や埼玉県環境基本条例の基本理念である「健全で恵み豊かな環境を維持しつつ、環境への負荷の少ない持続的に発展できる循環型社会の構築」に配慮し、企業誘致等を行っていく。そのため、埼玉県環境基本計画等に基づき、次のような取組を行う。

【具体的な取組例】

- ・ 大気汚染防止法、水質汚濁防止法、ダイオキシン類対策特別措置法、土壌汚染対策法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法及び埼玉県生活環境保全条例に基づき、大気、公共用水域・地下水、土壌の汚染の防止、騒音、振動、悪臭の防止のための対策を実施する。
- ・ 公害苦情相談員、埼玉県公害審査会を設置し、公害に係る苦情や紛争を迅速かつ適切に処理するとともに、事業所に対して公害防止管理者等の選任の徹底を指導するなど、企業における公害防止体制を確立する。
- ・ 企業・団体も参画した植林活動による森林づくり、県産木材の利用、緑のトラスト保

全地の公有地化などに取り組むとともに、工場立地法及びふるさと埼玉の緑を守り育てる条例に基づき、森林の整備保全、身近な田園・緑地空間の緑の保全と創出を推進する。

- ・ 戦略的環境影響評価制度及び環境影響評価制度を適切に運用し、環境負荷を少なくする計画づくりや環境保全のための措置に取り組む。
- ・ 家庭やオフィスでの環境学習の充実、省エネルギー対策及び再生可能エネルギー導入の普及促進などの対策により、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減を進める。
- ・ 資源循環型社会の構築を目指し、廃棄物の減量、再資源化、公共関与による環境産業の集積、最終処分場の確保、リサイクル技術の高度化、不法投棄など不適正処理の防止、産業廃棄物の大量たい積の改善などを進める。
- ・ 工場等の水利用の合理化を推進するとともに、地下水採取規制、地盤沈下の監視を行い、水環境の健全化と地盤環境の保全を図る。
- ・ 開発事業から埋蔵文化財を守るため、文化財保護法の趣旨に基づき、開発計画を事前に把握し、現状保存が不可能な案件について発掘調査・記録保存をするよう、開発業者を指導する。

(2) 安全な住民生活の保全

企業立地を通じた産業集積によって犯罪・交通事故等が増加することがないよう、県民が安心・安全に暮らせる社会をつくることが重要である。

そのため、県、市町村、事業者、地域住民が連携・共同して次のような取組を行うことにより、犯罪の発生しにくいまちづくり、交通事故が発生しにくくなるような道路交通環境の整備などを進める。

【具体的な取組例】

- ・ 道路、公園、工場等における植栽の適切な配置及び剪定により見通しを確保するほか、防犯カメラ、照明の設置などの防犯のための環境整備を促進する。
- ・ 自主防犯活動団体「わがまち防犯隊」に対し活動に必要な物品の提供などの支援を行い、自主防犯活動の充実・強化を図る。
- ・ 外国人を含む従業員に対して法令遵守、犯罪被害防止、交通安全等の教育を行う。
- ・ 子供を犯罪被害から守るため、「子ども110番の家」などの活動を支援するとともに、通学路を中心に、学校・PTA・ボランティア等の連携による子供の見守り活動を促進する。
- ・ 地域全体で高齢者を犯罪被害から守るため、高齢者世帯への訪問による防犯や交通安全などに関する情報提供・啓発活動を推進する。
- ・ 外国人労働者について、企業に対し、労働関係法令を遵守するよう周知するとともに、経済団体などと連携し、適切に意思疎通を図ることや日本語学習の機会を提供すること

を啓発する。

- ・ 外国人住民に対して、多言語による行政・生活情報の提供、日本社会のルールに関する啓発を行うほか、相談体制を充実させる。
- ・ 歩道、自転車レーンなどの交通安全施設や交差点の整備を推進するなど、人と環境に優しい道路環境の整備を図る。
- ・ 子供から高齢者までの年齢層に応じた段階的かつ体系的な交通安全教育を推進し、地域住民等の交通安全意識の普及徹底を図る。
- ・ 自転車の安全な利用や飲酒運転根絶などの交通安全に関する普及啓発活動を行い、県民総ぐるみの交通安全運動を推進する。

9 法第5条第2項第3号に規定する区域における同項第7号の施設の整備が農用地等として利用されている土地において行われる場合にあっては、当該土地を農用地等以外の用途に供するために行う土地の利用の調整に関する事項

同区域は、当面指定せず、指定する必要があるときは、計画修正により対応する。

10 計画期間

本計画の計画期間は、計画同意の日から平成29年度末日までとする。

県立自然公園、鳥獣保護区等の区域のうち集積区域とする区域

市町村名	集積区域とする区域	集積区域とする理由等	備考
飯能市	①大字芦荻場及び大字川崎の各一部、大字下川崎 ②大字双柳、大字岩淵、大字下畑及び大字上畑の各一部 ③大字大河原の一部	①第4次飯能市総合振興計画の土地利用構想において産業拠点として位置付けをしており、区域の一部が都市計画法34条12号の指定区域（市街化調整区域において、条例で開発の区域、目的等を定め、産業系施設の誘導を図ろうとする区域）となっている。 ②第4次飯能市総合振興計画の土地利用構想において産業拠点として位置付けをしている。 ③第4次飯能市総合振興計画の土地利用構想において工業地として位置付けをしている。	県立自然公園
東松山市	大字葛袋字山根791-2他	東松山ビジョン（第四次東松山市基本構想）の土地利用構想により、産業沿道系ゾーンに位置付けている地域である。	県立自然公園
入間市	大字野田地区	第5次入間市総合振興計画において工業系と位置付けられている野田工業団地を中心とした地域である。	県立自然公園
北本市	北本鳥獣保護区の西側部分（二ツ家1丁目の一部、緑1丁目の一部、本町4丁目の一部、大字北本宿の一部、大字下石戸下の一部、大字下石戸上の一部、石戸5～7丁目の一部、石戸8・9丁目、荒井2～6丁目、石戸宿1丁目の一部、石戸宿3丁目、石戸宿6～8丁	当該地域において鳥獣保護に重要な緑地等は石戸特別緑地保全地区において確保されており、同特別緑地保全地区は集積区域より除外されている。また、基本計画中にあるとおり、鳥獣保護区においては鳥獣の生活環境の保全に配慮し、現行の法制度に基づく各種規制に従って産業立地を行う。	鳥獣保護区

	目、大字石戸宿の一部、 大字高尾の一部、大字荒 井の一部)		
越生町	大字成瀬の一部、 大字大谷の一部、 大字西和田の一部	第5次越生町長期総合計画の土地 利用構想において「工業地域」「新 産業地域」として位置付けている地 域及び用途地域（工業地域、準工業 地域）である。	県立自然公園
嵐山町	大字鎌形字上大ヶ谷地 内の一部、 大字平沢字北山地内の 一部	第5次嵐山町総合振興計画の土地 利用構想において、工業系の土地利 用として位置付けられている区域 である。	県立自然公園
ときがわ 町	大字番匠、本郷、別所、 田中、桃木、関堀、馬場、 瀬戸元上、瀬戸元下	第1次ときがわ町総合振興計画の 土地利用構想において都市的機能 ゾーン等に位置付けられている地 域である。	県立自然公園
吉見町	大字長谷字七ノ谷 898～911、 大字長谷字八ノ谷 941～993	第5次吉見町総合振興計画の土地 利用構想において、工業・物流系の 土地利用として位置づけられてい る区域である。	県立自然公園